

## ご案内

# 企画講演“露天採掘場の残壁管理”

資源・素材学会残壁委員会 委員長 金子 勝比古(北海道大学名誉教授)

秩父地区残壁研究会 座長 山富 二郎(東京大学名誉教授)

皆様

このたび、資源・素材学会残壁委員会と秩父地区残壁研究会は、9月に盛岡市で開催される資源・素材学会秋季大会において、埼玉県秩父市・横瀬町の武甲山(標高 1,304 m)の石灰石採掘によって生まれた長大残壁の現状を中心とした企画講演を設けることになりました。詳細は資源・素材学会のHP(<https://confit.atlas.jp/guide/event/mmij2016b/session/11P/category>)にあります。

日時:2016年9月13日(火) 13:00~16:30

場所:岩手大学工学部キャンパス(〒020-8551 盛岡市上田四丁目3番5号)

会場:上記キャンパスの第1会場(テクノホール)

講演: 武甲山における残壁管理の概要	..... 秩父地区残壁研究会
武甲山における残壁管理の35年	..... 秩父地区残壁研究会
武甲山における残壁挙動のモニタリング	..... 秩父地区残壁研究会
残壁安定化対策工事とその効果の検証	..... 菱光石灰工業
残壁安定化を目指した降雨対策の効果に関する一考察	..... 三菱マテリアル, 菱光石灰工業

その他3件の講演が、昭和石材工業所、北海道大学/日鉄鉱業、東京大学より

秩父太平洋セメント、武甲鉱業、菱光石灰工業の三社(武甲山三社)は1981年より、武甲山山頂から協調採掘を開始し、35年が経過した現在、採掘レベルは880mLまで下がり、残壁幅は約2kmとなっています。2014年3月に、900mLから780mLまでの施業案が認可されましたが、これに先立って、残壁モニタリングとその分析結果、手法・プロセスの妥当性を問うために、武甲山三社は資源・素材学会に研究委託を行い、資源・素材学会残壁委員会が組織されました。その検討結果に基づき、残壁保全対策策定と施業案申請が行われました。本年4月、武甲山三社は資源・素材学会へ、施業案認可後の武甲山残壁の状態、モニタリング結果、対策工事の効果を検証するためのフォローアップを依頼し、資源・素材学会残壁委員会はフォローアップのまとめの中で、“武甲山での対策効果が、国内の残壁を有する石灰石鉱山の指標となるべく、成果を公表していくことも検討すべきである”と提言し、資源・素材学会秋季大会において、企画講演“露天採掘場の残壁管理”を持つことにいたしました。

本企画講演が開催される第1会場(テクノホール)は、広くゆったりとした会場となっておりますので、多くの皆様のご参加をお願いする所です。なお、本企画講演にご参加いただく際は、秋季大会参加登録が必要です(<https://confit.atlas.jp/guide/event/mmij2016b/static/sankamoushikomi>)。本企画講演そのものについてのお問い合わせは山富([tjiro@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:tjiro@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp))へ。